

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第74号（準備会から通算第95号）

発行日 令和5年6月3日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 山崎 徳次郎

・・・令和5年度住民協総会・総括・・・

令和5年5月6日（土）久木会館にて久木小学校区住民自治協議会（久小校区住民協）の令和5年度の総会が行われ、2時間以上に亘る対象事項の検討審議ののち承認され、無事終了した。

今年の総会の特長としては桐ヶ谷市長を始めとして行政7名、社会福祉協議会・地域包括支援センター職員5名と来賓も多く参加頂き、熱心に耳を傾けてくれたものと感じた。

当協議会設立以来、各部会を中心に6年の活動を展開してきたが、令和3・4年度は新型コロナウイルス感染拡大により止む無く書面総会としたものの、その時期以外は対面形式による総会を重視し実施してきた。我々の活動、思いを直接参加した方々にお伝えしたいという思いからのこだわりである。総会の資料作りも毎年役員会で3か月程議論を重ね作り上げている。そんな思いの真剣勝負を来賓の方も総会に参加された方々も、多くの方が受け止めてくれた総会となったものと手応えを感じる総会であった。

先ず市長が総会の場で、熱心にこれからの逗子市政の重要施策等の思いを語られ、皆が聞き入り、これを導入部として第1号議案から第6号議案の審議が行われた。

令和4年はコロナ禍のリスクを回避しつつ、役員会・各部会で問題解決の為に議論を重ねて意識の共有を図りながら活動を展開した。例えばコロナ禍前に活況を呈した多世代交流を目的とした「みんなの食堂」は密空間を回避するため大幅に活動を縮小、久木会館前のオープンスペースを活用した「久木朝市」に、久木小学校PTA及び学校関係者及び社協と合同で小学校校庭にて「拡大版久木朝市」を実施した。久木会館内で「みんなのカフェ」を開始し地域の交流促進事業として立ち上げた。又、最近多発する災害リスクに対して減災部会、ふれあい部会を中心に大災害に対する地域全体と逗子市が一体となった防災体制を構築すべく避難所、自主防災組織の安否確認等をカバーする包括的な体制構築に向け久小校区住民協の最優先課題として令和5年度も取り組んで行く。

久小校区住民協は今年度も地域の思いを共有し、地域の問題解決に果敢に挑戦、それを支える地域の人の繋がり、「お互いさまの助け合いが出来る関係づくり」を進めてゆく……。そんな思いを共有する総会であった。

事務局長 石井 達郎

久木小学校区住民自治協議会 2023年度総会議事録

開催日時：2023年5月6日（土）14時00分～16時35分

場所：久木会館 多目的B室・オープンスペース(1)

出席議決権者：出席議決権数 49（内委任状 17を含む）

議決権総数 82

配布資料：参加者全員に配布資料

- ① 久木小学校区住民自治協議会 2023 年度総会次第
- ② 第 1 号議案、2022 年度活動報告 (A4-5 頁)
- ③ 第 2 号議案、2022 年度決算書 (A4-3 頁)
- ④ 第 3 号議案、監査報告書 (A4-1 頁)
- ⑤ 第 4 号議案、2023 年度活動計画(案) (A4-2)
- ⑥ 第 5 号議案 2023 年度収支予算(案) (A4-3 頁)
- ⑦ 第 6 号議案 役員選任の件(案) (A4-1 頁)

議事に入る前に、小林寿志氏の総合司会のもと、市長挨拶、議員・来賓紹介がなされ、その後、議長に山崎氏を選任、校区住民協規約第21条により総会が成立することを確認したのち、議事審議に入る。

議事：

第 1 号議案（配付資料②）について事務局長より総括と本部活動を、4 部会長・久木会館長より各事業活動に関して説明された。

第 2 号議案（配布資料③）について鈴木為之氏より住民協、小林会館長より久木会館、の収支決算について説明された。

第 3 号議案（配付資料④）について増子監査役の代行として山崎会長、磯部監査役より説明された。

第 4 号議案（配布資料⑥）について事務局長より総括と本部活動を、4 部会長・久木会館長より各事業活動に関して説明された。

第 5 号議案（配布資料⑦）について鈴木為之氏より住民協、小林会館長より久木会館、の収支予算に関して説明された。

第 6 号議案（配布資料⑧）について事務局長より説明された。

審議の後採決の結果、全ての議案について可決された。

以上、議事を明確にするため、この議事録を作成し議長及び議事録署名人が次に署名捺印する。

令和5年5月6日

議長 山崎 徳次郎 印省略

議事録署名人 海野 和生 印省略

// 新倉 洋一 印省略

参考

総会における市長メッセージ

総会に参加された市長の挨拶の中にあつた、発言の要旨を記載します。

◆住民協の在り方

- ・久木住民協は、今活動している住民協の中でも一番活発な活動をしているように感じる。若い人たちの意見を汲み上げる姿勢や、パブリックビューイングなど多世代が一緒に盛り上げられるイベント開催などが住民協の活動に組み込まれているのがとても良いことだと思う。
- ・逗子小学校区にはいまだに住民協がないが、特に防災は地域のつながりが大切であることから、防災を基軸とした活動を芯として、住民協としての肉付けをしていけたらいいと考えている。

◆久木小学校改修計画

来年から老朽化が進む校舎の改修工事が始まる、まず体育館棟を道路沿いに新築し、現在の体育館棟を取り壊す。教室棟の改修に関しては、校庭に仮校舎を建てて一時的に移ることになるが基礎となる骨組みは利用できるとのことなので、生徒が仮校舎住まいとなる期間は最長でも3年までとなるように、順送りしながら工事を進める計画である。

◆子育て支援

「子育てするなら逗子で」をスローガンに子育て支援対策を実施する。

- 所得制限なしの高校生まで医療費の無償化は、他地域に先駆けて実施した。
- 出産手当の増額を図ってゆく。
- 学校の先生が生徒と向き合う時間を作る為、スクールサポートスタッフの派遣など、先生方を支える施策をしてゆく。

◆高齢者対策(最後まで逗子に住んでいて良かったと思える町にしてゆく)

- 買い物難民問題などの解決の為に、コミュニティバスの運行などを京急バス、タクシー会社と検討している。今年度提案を取りまとめ、来年度に、取り組める地域から実証実験を開始する予定。
- 現在児童施設として運用している「スマイル」の在り方も、高齢者も集える場所としても利用出来ないかを検討する。

◆その他

- 就任1期目は財政安定化のため、企業誘致を推し進めたが、工場用地に最低2000坪必要との話があり、逗子としては対応不可能であることが明確となった。そこで、逗子は成立ちが住宅の町なので、今後は「魅力ある住みたい町」としてゆくことに注力してゆく。

《レポート》 非常用電源としてソーラーパネル (併せてカーボンニュートラル)

鈴木 為 之 (山の根在住)

災害などで停電した際の照明の非常電源として、50Wのソーラーパネルを取り付けました。

パネルの大きさと重さは、大凡 50センチ*65センチ、3.7キロほどで、庭の片隅の日当たりのよい場所に据付けました。容易く運べる程度の大きさと重さなので、針金で固定した程度の据え付けで台風の際は外して室内に持ち込むことにしています。装置類は古い郵便受けに収めました。非常用といっても停電するような災害は稀なので、日常的に使えるようにセットして、実際には室内のPCなどを扱う仕事場の照明電源として使用しています。

照明は、4.5WのLED電球を使っていますが、特に曇天の日が続くようなことがない限りは、昼夜を通して問題なく使えるようです。好天の際に

ャージコントローラーに40W弱の発電量が示されました。

装置は、ソーラーパネルの他に、チャージコントローラー、蓄電池、インバーターです。費用は、これらの他に追加の配線等を加えて3万円弱です。

チャージコントローラーはパネルで発生した電気を正しく蓄電池に送る装置、蓄電池は車載用のバッテリーとは構造は異なるが同じ鉛蓄電池(12V*20Ah)、インバーターは蓄電池に蓄えられた12ボルトの直流の電気を、普通の電気機器が使えるように100ボルトの交流の電気に変える装置です。

照明以外にも、屋外で使用する井戸ポンプ(470W)や、池の循環ポンプ(11W)等に使用してい

ます。

(写真の説明：上の写真のボックス内左に蓄電池、右にインバーター、インバーターから白いコードが屋内照明に。板の上にコントローラー。下は針金で固定したパネルの写真)

極小さいといえども発電所を持った効果は、災害発生時停電の際の備えができたという安心感ですね。

経済効果は、今支払っている電気代は、直近で1 KWH 当たり 35 円程度ですから、4.5W の照明を 300 時間(10 時間*30 日)使って 1.4KWH で 49 円程度の効果、年間で 588 円の効果、元が取れるものではありません。

カーボンニュートラルに対する効果はどの程度か。1KWH 発電する際の炭酸ガスの発生量を 0.6 kg とすると(注：石炭火力で 0.87 kg、LNG 火力で 0.42 kg)、上と同様の照明の使用で 0.84 kg の GHG の削減効果、年間では 10 kg の削減効果で、この量は成長した杉木 1 本が年間に吸収する炭酸ガスの量程度です。一方では使われているソーラーパネルや蓄電池等の装置を作り私の手元に届くまでには、エネルギーが使われており相当量の GHG が発生しているでしょう。どのぐらいの GHG が発生しているかはわかりません。製品に完成までの過程でどれほどの GHG が発生したかが表示されていれば、使用者にとってはカーボンニュートラルの効果を大凡判断できることになるので便利ですね。所謂「カーボンニュートラル

の見える化」の一端です。

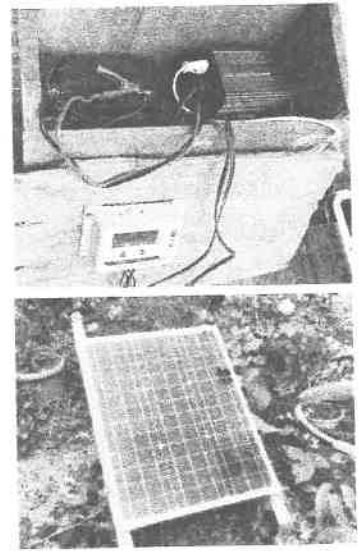
取り付けてからまだあまり時を経えないので、どの程度の寿命があるかはまだわかりませんが、車載用と同じ原理の鉛蓄電池の寿命が、多分最初に来るのではと思います。

10 年後は各家庭で蓄電池を持つ時代になるのではと想像されるので、安価で使い勝手のよい蓄電池の出現が待たれます。

屋根取り付けのような大規模なソーラーパネルではなく、取り付け簡単・持ち運びができる軽量簡易なソーラーパネルを、非常用として特に日常用に兼用できる形で備えておくことは、家庭の減災対策として有効なことと思います。

カーボンニュートラルに関係した事例として、ソーラーパネルの非常用電源としての使用について記載しました。

(注記：連載 カーボンニュートラル(続)で予定した、17. カーボンクレジット・オフセットは次月号に掲載となります。)



編集後記

神武寺とイワタバコと牧野富太郎博士・・・

神武寺社殿入り口の壁面と社殿の中庭の壁面に、6月上旬に咲く薄紫色の「イワタバコ」の花は有名である。

ところで今、NHKの朝ドラ「らんまん」で取り上げの牧野富太郎博士が一行を引き連れ神武寺に植物観察にしばしば訪れていた様である。私の手許にも知人が、牧野博士が大正15年に神武寺を植物採取、観察のため訪れた記録を送ってくれた。それによると大正15年一行は逗子駅を降りて金沢街道を通過して神武寺を訪れたらしい(当時JR東逗子駅は出来ていない)。

その内容を見ると参道沿いによく見られる各種シダ類、アオキ等、面白いのは薬師堂近くにある「なんじゃもんじゃ」の木等が記載され興味深い。神武寺のシダ類は豊富で、海からの湿気を含む風、適度な日陰がシダ類の生育に適しているのだろう。また記録には神武寺の住職とは顔なじみであるとも書かれており、植物観察に何度も牧野博士が来ていることを物語る。多分同博士が発見した新種もいくつかあったのだろう。

今神武寺は新緑の緑が一番美しい時である。牧野博士を思いながら参道や付近の植物を見て回るのは如何だろうか？

事務局長 石井 達郎